

橋本照稔会長御遷化

昭和六十三年から二十五年間当会の理事長を務められ、平成二十四年からは会長に就任された、前成田山新勝寺貫首橋本照稔会長が令和三年二月十八日に御遷化されました。橋本会長を偲び小畑理事長（当時副理事長）が成田山だより「智光」に投稿された記事をここに転載、再掲させていただきます。

千葉県婦性会副理事長

小畑哲夫

去る二月十八日、本会の会長橋本照稔様がお逝去なされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げますと共に、会長との思い出を書かせて頂き追悼とさせて頂きます。



記念誌発刊について橋本貫首と面談された小畑副理事長

橋本会長は昭和六十三年から二十五年間本会の理事長、そして平成二十四年から現職の会長に就任されました。今日、本会は更生保護施設として実績を上げ、確固たる地位を占めており、橋本会長は最大の功績者で更生保護関係者から敬意を表されています。

橋本会長との出逢いは、私が法務省保護局の更生保護施設担当の所管課長時に始まります。当時、橋本会長は千葉県婦性会の理事長として全国並びに関東地方更生保護施設連盟の役員として活躍されていました。私は、本会の役員としての今日までの十八年間に涉り、橋本会長からは、本会の歴史、その役割や運営の在り方についてご指導を賜りました。

今でも忘れられないのは、平成二十九年夏に橋本会長から、私に記念誌を発刊して欲しいとのご要請がございました。本会の前身である千葉保護院が、明治三十年に成田山新勝寺の尽力で誕生したという歴史がありますが、その後の具体的な事業の実績を俯瞰することがなかった

のです。編纂作業に当たっては、橋本会長から成田学園五十年史を始め多くの資料の提供やお話が伺え、お陰様で本会の歴史を紐解くことができました。平成三十年九月十三日に「千葉県婦性会創立百二十年感謝の集い」が開催され、本会の創立百二十年周年記念誌が披露され、橋本会長がお喜びになっていた姿を今でも鮮明に記憶しております。

平素、橋本会長は更生保護のあるべき姿として仏教の教えである「一切衆生・悉有仏性」を強調されていたらっしゃいました。これは全ての人間は本性の善なることを信ずるが故に更生保護の道が開かれるとのことで、正に更生保護の精神だと思います。今後とも橋本会長の更生保護への思いを継承し、未来に繋ぐことが我々の責務と自覚しております。

終わりに、本年二月二十三日の天皇陛下のお誕生日に際し、本会が天皇陛下の御召しの御沙汰書と御下賜金を拝受致しましたことを、御霊前に報告させていただきます。